

島根県総合開発審議会(平成15年第1回)議事要旨

(開催要旨)

1. 日 時 平成15年7月25日(金)13:00~15:00
2. 場 所 サンラポーむらくも(松江市)
3. 出席者
会長 本田雄一 島根大学学長
副会長 室崎富恵 島根県社会福祉協議会副会長
委員 天川藤信 島根県森林組合連合会副会長
委員 池田真理香 五箇村地域福祉センター所長
委員 石原奈津子 (有)茄子の花代表取締役
委員 猪野郁子 島根大学保健管理センター所長
委員 牛尾ちえの (株)メイワ代表取締役
委員 宇野重昭 島根県立大学学長
委員 梅林益美 環境とIT社会を考える消費者の会代表
委員 岸 宏 島根県漁業協同組合連合会会長
委員 中尾 翼 VLC(株)代表取締役
委員 福代俊子 JAしまね女性協議会会長
委員 藤原ヒサヨ 島根県連合婦人会会長
委員 古瀬 禦 島根県中小企業団体中央会名誉会長

(議事次第)

1. 開会
2. 知事あいさつ
3. 議事
 - (1) 会長、副会長の選任
 - (2) 島根県総合計画について
4. その他
5. 閉会

(配付資料)

資料1 島根県附属機関設置条例(抜粋)島根県総合開発審議会規則

資料2 島根県総合計画策定スケジュール

資料3 島根県総合計画骨子(案)

(参考資料) 政策・施策の内容

(参考資料) 県勢の現状

(参考資料) 長期計画実施状況 / 総合計画イメージ図 / 行政評価と成果指標

(意見) 発言順

本県の目指すべき将来像として「自立的に発展できる快適で活力のある島根」とあるが、島根県の「自立的」な発展を考える場合、日本国の中の島根県としてその位置づけを考えなければならない。国政に明確な方向性が見えない中で、本計画が国の考え方をどうとらえ、反映させていくのか。国の計画との整合性を検討し、本県の目指す政策の方向を国に対して明らかにして、必要に応じ要望していかねばならない。

計画骨子案全体として民間活力の活用に力点が置かれており、民間エネルギー活用の方向が示されている点を評価したい。問題点として、地方分権の時代の中での国 県 民間の役割が見えにくいこと、政策・施策体系がやや羅列的、総花的であり、「時代の動きと基本認識」と「政策の柱」の間の有機的連関性が見えないこと、隣接県との関係において島根の特徴を取り上げる視点もほしいこと、を挙げたい。

国際化への方向性が明らかになっていない。自身の経験から、若い人が積極的に海外を指向できるような仕組みづくり、国際化に対応できる人づくりが本県の課題であると思う。また、県産品等優れた資産を広く海外に認知させる必要がある。

政策・施策をとおして「地域資源」という視点が多くみられ、69の施策が地域の視点でより深化されていくことを希望したい。

この計画が目指す、県民1人ひとりが幸せを感じられるような島根になれば、と願っている。隠岐地域で町村建設計画策定に関わるなかで感じるのは、厳しい時代にあって「何もかも」という計画は成り立たない。これからどこに力を入れていくのか、明確にしてほしい。きめ細かな指導による生産体制の確立など、一次産業への一層の指導に期待している。また、本県の地盤や植生を研究し、災害に強い地域をつくり、地震対策を強化してほしい。

本県の社会資本は以前に比べて大きく充実してきており、こうした成果は正当に評価されなければならない。行政も県民にもっとアピールする必要がある。従って、これらの先行投資の妥当性を踏まえ、これからの厳しい財政状況のなかでは、県民も財政健全化に協力すべきであることを強調すべきだ。

時代の動きと基本認識の中で IT 社会が取り上げられているが、IT の倫理問題に言及されていない。重要な問題なので盛り込んでほしい。